

2024 年度 釧路市立高等看護学院 自己点検・自己評価結果報告

厚生労働省の指針である「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書に基づき、自己点検・自己評価委員会を発足し、教職員を対象とした評価を行った。

評価は「Ⅰ. 教育理念・教育目的」「Ⅱ. 教育目標」「Ⅲ. 教育課程経営」「Ⅳ. 教授・学習・評価課程」「Ⅴ. 経営・管理過程」「Ⅵ. 入学」「Ⅶ. 卒業・就業・進学」「Ⅷ. 地域社会／国際交流」「Ⅸ. 研究」の 9 カテゴリー106 項目に基づき、教職員を対象に 5 段階リッカート尺度（「そう思う：5 点」、「ややそう思う：4 点」、「あまりそう思わない：3 点」、「そう思わない：2 点」、「わからない：1 点」）を用いて点数化し、平均値を示した。結果については資料 1 参照。

「Ⅰ. 教育理念・教育目的」は概ね肯定的な評価であり、全体の平均は昨年度より 0.3 ポイント上昇し 4.7 となった。カリキュラム改正を受け、新たにアドミッションポリシー、ディプロマポリシーを策定し、学生便覧等で学生に周知できるように取り組みを行ってきた結果であると考えられる。

「Ⅱ. 教育目標」についても概ね肯定的な評価であり、全体の平均は昨年度より 0.2 ポイント上昇し 4.8 ポイントとなった。特に項目 6 は前年度より 0.4 ポイント上昇し 4.7 ポイントとなった。今後も卒後教育に関して、病院と情報交換を行い連携を図っていく必要がある。

「Ⅲ. 教育課程経営」は前年度と比べ平均点が 0.1 ポイントの下降となった。新型コロナウイルス、インフルエンザなどによる実習の影響は続いているが、これまでの経験を活かしながら学生の学びを保証するための対応はできた。一方で、項目 17 は 2.6 ポイント、項目 19 は 2.7 ポイントと低い状況であり、より良い教育を行うための、教員の授業準備・自己研鑽、相互研鑽の時間の確保が今後の課題である。

「Ⅳ. 教授・学習・評価課程」は前年度と比較し平均点が 0.3 ポイントの上昇となった。前年度から実習のアンケートを変更しより具体的に学生の意見を分析し実践に活かしていくことが出来た。実習評価表は、ループリックにしたことで具体的な評価ができ学生に還元出来てきておりさらにブラッシュアップを行っていく。学生が主体的に学習できるよう、モデル人形等をもっと活用していける場所の作成に取り組み始めた。

「Ⅴ. 経営・管理過程」は平均点が 4.2 点と前年度から 0.2 ポイント上昇した。項目 9～12 については、引き続き教員それぞれが財政面や整備計画について関心を持ち、情報を共有する場を設けていく必要がある。全国的に看護師を目指す人数が減少しており、釧路においても志願者数が年々減少している。それに伴って学生の基礎学力の低下は避けられず、そこにどう対処していくのか、教員自身も不安を感じていると考えられる。入学者のレディネスに応じた教

育活動が行えるよう、計画的に取り組んでいく。

「Ⅵ. 入学」は前年度と比較し、平均点が 0.2 ポイントの上昇となった。入学者選抜の考え方やその妥当性の検証について実施されているが、少子化や看護師を志望する人数が減少しているため、入学者の確保が難しい現状にあることが要因と考えられる。引き続き、入学者数の確保に向けた対応を行っていく。

「Ⅶ. 卒業・就業・進学」は平均点が 4.0 点と前年度から 0.4 ポイント上昇した。当校の卒業生は多くが実習病院の市立釧路総合病院へ就職しており、卒業生の状況については校務支援システムを活用し情報を整理している。統計的な分析は十分できていない現状がある。卒業後の継続教育の在り方について、どのように取り組んでいくか検討が必要である。

「Ⅷ. 地域社会／国際交流」については平均点が 3.6 点と低かった。今年度も、ふれあい広場や献血ボランティア活動の参加再開ができ地域との交流を図ることができた。来年度も同様に活動を継続していく。また、在学中の学生が留学や海外での就学を希望した場合についても、支援する体制を設けているが、実施例がないため低い評価となっていると考える。

「Ⅸ. 研究」については平均点が 3.1 点と前年度同様低い結果となった。学院として、研究に取り組むことは出来ず、看護教育に関する学会での発表は行えなかった。研究に取り組む教員の講義時間数の調整や休暇の調整なども含めて環境を整える努力を今後も行っていく必要があると考える。